

知事、浸食に危機感

現場訪問
第3弾

平塚、茅ヶ崎の海岸を視察



「大きな環境対策必要」

松沢知事は2日、「ウイークリー知事現場訪問」の第3弾として、浸食が著しい平塚、茅ヶ崎市の海岸を視察した。同時に、砂浜の再生について地元住民らと意見交換した知事は、「湘南海岸を守るため、大きな環境対策が必要だ」と危機感を募らせ、対策を検討する考えを表明した。

知事はまず、午前9時過 浜台の海岸を視察。その後、き、浸食の状況を目で確か

ま。これらの海岸で浸食が始まったのは1980年代から。原因として、相模川のダムが砂の流出をせき止めたことや、茅ヶ崎漁港の堤防が水流を変えたことなどが指摘されている。これにより、場所によっては断崖のようになったり、約60センチも海岸線が後退したりした。

知事は、海岸のサイクリングロードを歩きながら、こうした状況について県藤沢土木事務所職員らから説明を受けた。また、茅ヶ崎市で砂浜の再生に取り組んでいる「ほのぼのビーチ

も耳を傾けた。

実行委のメンバーからは、「浸食を防ぐと人工構造物を作っても失敗する」「市民が集まって知恵を出

し合うような場を設けてほしい」といった意見が出たほか、別の場所から砂を持つてくる方式で成功した海外の事例も紹介された。

知事は25年ほど前、この近くに住んで海岸を毎朝走っていたといい、「想像以上に浸食が進み驚いている。突堤による対症療法では、(この)海岸になる。

自然のままです。将来に残せよう、山、川、海の連続をとらえた大きな環境対策が必要」と住民に話した。また、帰庁後の記者会見でも、「浸食の状況に強い危機感を感じた。県庁の情報を知りたくては分らない。この目で見た事実で今後の対応を考えたい」と述べた。